

強制移住

松浦 純子

強制移住とは住民が本人の意に反して移住させられることを指す。移住先は「首都近郊」と、「辺境または他国」の二つに分けることができる。前者はルイ一六世や秦代の富裕者がそうされたように彼らの動きを警戒するため、あるいは特別な知識や技術を持っている人たちを捕らわれの身にして他にそれらが漏れないようにするためである。一方、後者は例外なく支配者にとって都合の悪い人たちを追放し、労働力として働かせることが目的である。

古代で最も有名なのは紀元前六世紀の「バビロン捕囚」であろう。人口が減少し荒廃した新バビロニア王国の首都バビロンを再建するために、滅亡したユダ王国からユダヤ人を強制移住させた事件である。そして現在起きている強制移住はウクライナの子供たちをロシアへ連れ去るという悲惨な事件であろう。

そのロシア・ソ連邦ではスターリン時代に隠されていた強制移住がいくつもあった。第二次大戦中に極東の朝鮮出身の人たちが日本と密通することを恐れ中央アジアへ強制移住、さらにドイツへの協力を疑われたクリミア・タタール人が中央アジア・シベリアへ強制移住というように、生きていくのに最も過酷な地へ危険だと思われる多くの人を送り込んだ。移住先での生活の実態についてはゴルバチョフの時代に少し解明したようだ。ロシア最長の川のオビ川にある無人島にモスクワやレニングラードから送り込まれたネップマン（富商）やクラーク（富農）の様子は知ることができる。さすがのスターリンもこの島への強制移住を中止させたくらい悲惨なものだった。彼らは移住というより遺棄されたという方が適切だった。富裕な人たちは食料生産の術を知らず、ついに人肉を食べたといわれている。他人から与えられる生活ばかりしては非常時に生きていけないことを学ばされた事件である。

東欧では伝統的に独裁者が生まれてきた。ビザンツ帝国、ロシア帝国、ソ連、ロシアと続く流れを今目の当たりにしている気がする。